

科目名	(D) コミュニケーション論演習 (2019年度以降入学者) 英語文化演習 (2018年度以前入学者)	担当者	佐々木 輝美
開講期	通年	単位数	4単位
<b>【概要】</b>		<b>【授業計画】</b>	
<p>研究論文が書けるようになることを目指すので、演習の内容は基本的には修士課程の演習と同じであるが、内容的にはさらに上級レベルになります。</p> <p>目的：コミュニケーション論に関する研究論文が書けるようになる。</p> <p>内容：研究論文を書く上で基本的な事は、1)先行研究を行う、2)適切な研究方法を選択する、3)研究結果の意味を読み解く、4)決められた論文スタイルに従う事と考えます。</p> <p>したがって本授業では、以下の内容を扱います。</p> <p>1.コミュニケーション論に関連する先行研究を学ぶ。 2.コミュニケーション論の研究手法論について学ぶ。 3.研究結果の意味を読み解く練習を行う。 4.論文をまとめる際に参考とすべき決められたスタイルについて学ぶ。</p> <p>・上記の1と3については同時に学びます。 ・上記に関する学びの順序は、受講生の状況に応じて調整します。</p>		<p>1.授業概要説明、次回のインタビュー項目 2.受講生の関心領域についてのインタビュー 3.コミュニケーション論関連の先行研究1 4.コミュニケーション論関連の先行研究2 5.コミュニケーション論関連の先行研究3 6.コミュニケーション論関連の先行研究4 7.コミュニケーション論関連の先行研究5 8.中間報告1 9.剽窃について 10.APAスタイルについて1 11.APAスタイルについて2 12.APAスタイルについて3 13.APAスタイルについて4 14. 中間報告2 15.コミュニケーション論の研究手法1 16.コミュニケーション論の研究手法2 17.コミュニケーション論の研究手法3 18.コミュニケーション論の研究手法4 19.コミュニケーション論の研究手法5 20.中間報告3 21.コミュニケーション論関連の先行研究6 22.コミュニケーション論関連の先行研究7 23.コミュニケーション論関連の先行研究8 24.コミュニケーション論関連の先行研究9 25.コミュニケーション論関連の先行研究10 26.最終報告のドラフト1 27.最終報告のドラフト2 28.最終報告</p>	
<b>【到達目標】</b>		<b>【事前・事後学修の内容】</b>	
コミュニケーション論に関する博士論文のテーマを決定し、執筆できるようにする。		事前に授業に関連する資料に目を通し、中間報告、および最終報告に備えて授業内容に関する事後学修を行う。	
<b>【テキスト・参考文献】</b>		<b>【評価方法】</b>	
<p>テキスト：プリント配布予定 参考書：<i>Publication Manual of the American Psychological Association (6<sup>th</sup> Edition)</i>, APA. <i>Communication Research Measures: A sourcebook</i>, Routledge. <i>Communication Research Measures II: A Sourcebook</i>, Routledge.</p> <p>・教育・心理統計と実験計画（教育出版）</p>		授業活動への参加 20%、中間報告 30%、最終報告 50%による総合評価を行なう。	